

## 2022年度(令和4年度)関西創価中学校 学校評価

### ◇ 教育基本方針

- <1>「語学」と「読書」を柱に、主体的に学ぶ生徒の育成【可能性の育成】
- <2>「感謝」の心を大切に、他者を認め、互いに励まし合う生徒の育成【心の育成】
- <3> 創立者の哲学を学び、世界市民となりゆく生徒の育成【世界市民の育成】

### ◇ 教育活動・実践における重点項目

#### 〔I〕教育理念に基づく「人間教育」の推進

- (1) 主体的に学ぶ
  - ・「自ら学び、互いに学び合う」学習習慣を身につける。
  - ・「探究」の学びを通して、広い視野を養う取り組みを進める。
- (2) 互いを認め合い励まし合う
  - ・日常のあいさつ、感謝の「ありがとう」の習慣をつける。
  - ・「話す力、聞く力、他者とつながる力」を育む。
- (3) 創立者の哲学を学び実践する
  - ・日々の教育活動や各種行事の取り組みを通して、創立精神を学ぶ。
  - ・社会で活躍する方の講演会や懇談会などを通して、世界市民の資質を育てる。

#### 〔II〕教育力向上への挑戦

- (1) 授業力向上への取り組み
  - ・「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指した授業改善を推進する。
  - ・研修(ウェブサイトも活用)参加を推進する。
- (2) 生徒理解への取り組み
  - ・全教員が積極的に生徒一人ひとりとの個人面談を実施する。
  - ・保護者面談を通して家庭との連携を深める。
  - ・各調査やアンケートを通して一人ひとりの状況を多角的に把握する。
- (3) 支援教育への取り組み
  - ・サポート体制を充実させ、全教員が協力して個々の支援を推進する。

#### 〔III〕「無事故の学園生活」に向けた安心・安全への取り組み

- (1) 各種セミナーを実施し、正しい知識を身につける。
- (2) 生徒会活動を通して、生徒のマナーへの意識改革を図る。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p><b>【生徒に対する取り組み】</b>                      昨年度に引き続き、コロナ禍で以前のような学校運営はできなかったが、その中で十分な感染防止対策を行いつつ、できる範囲で学校行事も積極的に行った。                      授業にも教員一人ひとりが様々な工夫を重ねながら取り組み、概ね好評であった。                      生徒全員へChromebookを配布しており、新型コロナウイルス感染対策として、家でも授業を受けられる、ハイブリッド授業を展開したことにより、授業への遅れを解消することができた。</p> <p><b>【保護者に対する取り組み】</b>                      保護者ポータルサイトや保護者メールによる連絡体制がうまく回っている。                      年度後半では、さまざまな購入や英検申込の振り込みなどを保護者ポータルから行えるシステムも導入したが概ねうまく運用できている。                      また、保護者会や授業公開、競技大会、合唱祭等、密にならないような工夫などの感染対策をしながら、昨年度より学校に来ていただく機会を多く持った。</p> <p><b>【教員に対する取り組み】</b>                      教育アドバイザーを委嘱し、授業をはじめ様々なアドバイスを受けるなど、積極的に取り組んだ。                      生徒指導、生徒サポート、教務に関する毎月の研修にも力を入れて取り組んだ。                      学び合いの授業にも積極的に研究、取り組みを行う教師も増えてきた。互いに研鑽の場を増やしていきたい。</p>	<p>グローバルパスポートについては、娘は3学期末に達成感を感じていたが、日常での取り組みなど、もっと身近に感じられたらいいと思う。</p> <p>欠席時にオンラインがあったのはすごく助かった。</p> <p>息子からビブリオバトルで紹介された本を買ってほしいと言われてたり、自分でも紹介文の作成に一生懸命取り組んでいて、良い取り組みだと感じた。</p> <p>英検は、周囲が受験していることに触発されて娘も頑張っていた。</p> <p>図書館が素晴らしい。図書館を授業等でももっと活用できるといい。</p> <p>読書への取り組みは本当にありがたい。入学前は受験のために1冊読んだくらいだったのが、今はTVよりも本を読むようになった。それが兄弟にも影響している。</p> <p>荷物が多いいのは、毎日大変そうで心配。                      chromebookも大変重い。教科書・問題集、chromebookなど、置いて帰ってもいいものなどを明確に指示してもらえるとありがたい。</p>

【本年度の取り組みについて計画・実践・評価指標・自己評価】

中期的目標	今年度の重点目標	取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
教育理念に基づく人間教育の推進	(1)主体的に学ぶ			
	ア.「自ら学び、互いに学び合う」学習習慣を身につける	学び合い授業の推進、各自が目標を持った学習への取り組みを推進する	学び合いを取り入れた授業の割合	学び合いを取り入れた授業実施率が、昨年度の50%より増えた
	イ.「探究」の学びを通して、広い視野を養う取り組みを進める	新たに「探究推進室」を設置し、年間を通して、主体的対話的に学ぶ機会を体系化する	年間の行事が単独で行われるのではなく、計画的に連動して行われるようになる	概ね計画通りにできた。集大成の3学期探究発表会も、生徒が主体的に取り組み、保護者の反応も概ね好評であった
	(2) 互いを認め合い励まし合う			
	ア. 日常のあいさつ、感謝の「ありがとう」の習慣をつける	生徒・教員ともに日常的に自ら笑顔であいさつを行っていく	日常的にあいさつが行われているか	感染防止のため全員がマスク着用するようになったこともあり、あいさつそのものが減ってきている
	イ. 「話す力、聞く力、他者とつながる力」を育む	1分間スピーチ、ビブリオバトル、暗唱大会、朗読コンテスト、対話会の実施	各種コンテストの実施	コロナ禍のため今年も朗読コンテストは実施できなかったが、他は実施できた

	(3) 創立者の哲学を学び実践する			
	ア. 日々の教育活動や各種行事の取り組みを通して、創立精神を学ぶ	3大行事を中心に、研修行事や道徳、HR等で創立精神を学ぶ	創立精神学習の実施	3大行事の取り組みの一環として、創立精神学習を行った
	イ. 社会で活躍する方の講演会や懇談会などを通して、世界市民の資質を育てる	文化講演会、キャリアガイダンス、アメリカ創価大生や卒業生との懇談会の実施	講演会、懇談会をできるだけ開催する	「夜回り先生」水谷氏の講演、中3対象のアメリカ創価大元学長懇談授業などを開催できた
	(1) 授業力向上への取り組み			
	ア. 「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指した授業改善を推進する	学び合い授業の推進、研修の実施、互いの授業を参観しあう取り組みを行う	教員、生徒へのアンケートの実施による評価を行う	生徒の授業評価はおおむね良好であった。互いの授業を参観しあう取り組みは少し後退した
	イ. 研修(ウェブサイトも活用)参加を推進する	月例研修の校内実施、外部研修への参加推進と校内研修の充実に取り組む	月例研修実施に加え、Find!アクティブラーナー(web研修)の推進、研修受験者の増加を目指す	校内月例研修は今年も充実していた。外部研修(web研修を含む)の参加数は伸び悩んでいる
	(2) 生徒理解への取り組み			
教育 力 向 上 へ の 挑 戦	ア. 全教員が積極的に生徒一人ひとりの個人面談を実施する	担任や副担任、学年主任、クラブ顧問など年に何度か全生徒と面談を行う	担任は1学期は必ず面談実施 他は随時行う 実施率100%を達成する	全担任が達成。昼休みなど廊下で懇談する姿が多数見られた
	イ. 保護者面談を通して家庭との連携を深める	年2回の保護者面談週間による面談を実施	全員実施(オンライン実施を含む)	100%達成した。オンライン懇談が定着したことで時間場所の自由度が増した
	ウ. 各調査やアンケートを通して一人ひとりの状況を多角的に把握する	i-checkやいじめアンケートを定期的実施し、いじめ防止と生徒サポートを行う	アンケートの実施および分析で、対応すべき生徒の早期発見を行う	i-checkは参考になったが、コロナ禍で不安定な生徒が多く、対応に多くの時間と労力を要した
	(3) 支援教育への取り組み			
	サポート体制を充実させ、全教員が協力して個々の支援を推進する	サポート部の活動の充実(支援会議・教員研修の実施)、個別支援計画の作成	毎週の支援会議の実施、SSC、SSWの連携を充実させる	支援体制も支援に関わる人数も大幅に改善され、保護者満足度も向上した
安全 安心 の 充 実	(1)各種セミナーを実施し、正しい知識を身につける	食育、ネット、防犯、防災、薬物乱用防止などの各種セミナーの実施	食育、ネット、防犯、防災、薬物乱用防止などの各種セミナーの100%実施	100%実施できた。オンラインでの実施もあったが、うまく運営できた
	(2)生徒会活動を通して、生徒のマナーへの意識改革を図る	生徒会活動の活性化、登下校指導の充実、安全セミナーの実施	無事故の達成、マナーの向上を目指す	登下校に関する大きな事故はなかった。引き続きマナー向上のための取り組みを行っていきたい

## 【まとめと改善点】

自己評価と学校関係者評価を踏まえ、今後の重点的な目標・指導計画・改善方策および学校運営のあり方について、以下にまとめた。

### 1. 今後、重点的に取り組む目標・計画

学校教育目標においては、PDCAの観点より生徒ならびに保護者の声を反映した見直しを徹底して行い、さらなる生徒の健全な育成のため、より具体的な教育目標を掲げていく。

目標に示した各項目については、なお一層、その成果を上げるための計画および具体的な改善方法を全教員が主体的に検討するとともに、「育てたい学園生像」を中心に据え、全教員が一体となって更なる学校変革を推進していく。

#### ① 教員の資質向上

教員の教育力向上のために人材育成の研修体制を整え、全教員が各自のテーマに沿った研究を進める(Find!アクティブラーナーによる、階層別研修の実施)。

また、校内においても青年研修、生徒指導研修、生徒支援研修など定期的に開催するとともに、より良き学園建設のための検討を皆が主体的に行っていく雰囲気を作る。

また、各種研修の告知を積極的に行い、個々の研修の機会拡大と充実を図る。

#### ② 授業充実

生徒一人ひとりが「学び」の分野拡大に積極的に取り組めるような環境作りを推進する。

「グローバルパスポート」は、冊子を廃止しweb版に移行するなど、生徒がより身近に感じる取り組みにバージョンアップさせる。

また、主体的な生徒会活動を推進し、生徒による自主的な活動を充実させる。

#### ③ 読書教育の充実

ビブリオバトル開催などを中心に、「子供の読書活動優秀実践校」、「朝の読書大賞受賞校」として、生徒全員が積極的に読書へ取り組めるような努力、工夫を一層進めていく。

また、授業での図書館の利用を積極的に進め、手軽に本に親しめるよう学級文庫の更なる充実を図る。

#### ④ 創立精神学習の充実

創価教育の基本となる創立精神を学ぶため、アーカイブ資料を授業で活用できるよう推進する。

また、行事の取り組みを通じて、心の育成を更に推進し、実行力・実践力の向上に努める。

#### ⑤ 生徒の評価活動の充実

生徒の主体性・積極性・創造力等を培うため「主体的・対話的で深い学び」の実践を推し進め、研修やセミナーへの積極的な参加、研究授業の実施、公開授業の取り組みなどを通じて、教員間に「授業力向上」の気風を定着させることを目指す。

### 2. 今後の学校運営のあり方

「最大の教育環境は教師自身である」とは「創価教育の精神」であり、教員の資質向上こそが「学校教育力」の基礎と言える。

本校では創立精神や教育方針を根幹に据えつつ、生徒・保護者のニーズに応えうる教育活動を展開していきたい。そのために、以下の3点を特に意識し取り組んでいきたい。

一、保護者ならびに学校を支えてくださっている関係者の方々による評価を謙虚に受け止め、常に改善に努めていく。

一、教育内容の充実を一層図るとともに、新たに策定した「育てたい学園生像」に即して学校運営を見直していく。

一、教員研修への参加を推奨し、教員の資質向上に努め、学校全体の教育力向上に一層努めていく。